

は し が き

情報化社会の現代では、膨大な情報が我々の周りに押し寄せています。そのため、うっかりすると情報に受身や不感症となり、その時々の情報に押し流されてしまいがちになります。私たちは、情報を自己の向上に役立てるため、積極的に選択し活用できる能力を身につけなければなりません。これからの学校教育においても、この積極的に学ぶ意志・態度・能力の育成が一層重視される必要があります。

積極的に情報を選択し活用できる児童生徒を育成するには、まず教師自身がそうすることが必要です。臨時教育審議会等において教員の資質・能力の向上が求められています。 「いじめ」「登校拒否」など当面の教育課題の解決のためばかりでなく、教師自身の積極的な姿勢が児童生徒に意欲を持たせ、生き生きとした学校を実現させることになると考えられます。

学校において教育課題解決のため校内研究や研修が盛んに行われていることは、たいへん喜ばしいこととあります。当教育センターでは、教育資料室を設け、県内教職員の研究・研修のために教育資料・情報の提供を行っているところでございますが、近年着実にその利用が増えてきていることを喜んでおります。

学校における教育研究や研修を充実させるためには、先行研究や実践を資料として有効に活用することが必要です。しかし、そのような研究や実践が記載されている他校の紀要や他県の教育センターの研究誌は、市販されていないためその存在もわからず、入手が極めて難しい状態にあります。そこで教育資料室ではこれらの資料を収集し、資料の紹介と検索のため「教育資料目録」を作成して各学校に毎年お届けしております。

この教育資料の収集と提供のための資料として、昭和58年の調査に続き今回も調査を実施いたしました。この研究報告はその調査をまとめたものです。この研究報告が、みなさんの教育研究や研修の資料情報としてなにかにお役に立てれば幸いです。内容的に不十分な面も多いことと存じますが、御一読いただき、御指導くださいますようお願い申し上げます。

最後に、今回の調査に御協力くださいました各学校の皆様にご心よりお礼申し上げます。この調査資料をこれからの教育資料室の運営に生かし、その充実と発展に努める所存でございますので、今後ともなお一層の御指導、御協力をお願いいたします。

昭和61年3月

新潟県立教育センター所長 星 智信